

第2回発明コンテスト表彰式

柔軟な思考と発想力を！

本学生産技術研究所は七日、第二回東京大学学生発明コンテストの表彰式を本郷キャンパス山上会館で開催した。優秀賞、アイデア賞、奨励賞など、十一名と一組の学生が受賞した。

東京大学発明コンテストは、研究者としての第一歩を踏み出したばかりの柔軟な思考を持つ学生に、知的財産権主張のトレーニング

機会を与えることを目的として、本学生産技術研究所が平成十五年度から開催している。今回は昨年に続いて二回目となる。

表彰式でははじめに本学生産技術研究所の西尾茂文所長が挨拶をした。西尾所長は挨拶の中で、今は、何でも、どんな発想もありの時代であると指摘。白紙に絵を描く時代であ

り、発想が問われる時代であるとした。また、今回の受賞十二件の内、医学部が

一件だけで、十一件が工学部であることに触れ、今後もっと多くの学生がこのコンテストに参加し、工学部以外の多くの学生が受賞することを期待していると語った。

続いて石川正俊本学副学長が挨拶。近年科学技術の構造が変っており、現象が分かったことだけではなく、何かを創ったことを重視する傾向になりつつあると語った。大学も新しい方向に向っており、学生は教授に教わることに以上に分頭の頭で考えることが大切であると述べた。

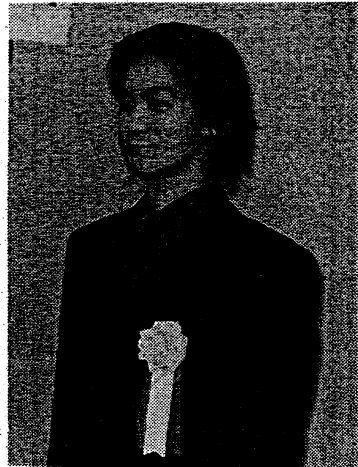
その後、懇談会が行われ、学生と教授らが食事を囲んだ。

受賞者と発明の名称は以下の通り。

（優秀賞）

- ・大久保康平（大学院工学系研究科 システム量子工学専攻修士二年）「自転車スタンドロック」
- ・梅野顕憲（大学院工学系研究科 電子工学専攻博士二年）「よく知られた医薬品を用いた金のナノめっき技術」
- ・宮川淳（大学院工学系研究科 電子工学専攻博士二年）

（その他）アイデア賞二名 一組、奨励賞六名



優秀賞を受賞した大久保さん